

開館5周年記念展

愛についての100の物語

Hundred Stories about Love

8

8月の展覧会プログラム August

金沢21世紀美術館では現在、開館5周年記念展「愛についての100の物語」を開催中です。
そのイベントプログラムとして、8月に下記のイベントを実施しますのでお知らせします。

7日(金) 10:00~12:00 / 17:00~19:00

8日(土) 10:00~12:00

美術館敷地内「黄色い玉」のある場所



撮影:オーギカナエ

牛嶋均 USHIJIMA Hitoshi

80年代は田中泯が主宰する「舞塾」に所属。身体パフォーマンスとしてヨーロッパを回り帰国。その後、家業の道具製作所を手伝いながら自ら道具を彫刻と呼ぶ作品を発表している。作品の多くは見るだけでなく、体験としての関わりを持って成立するところに特徴がある。黄色い球体《ころがるさきの玉 ころがる玉のさき》は関わる人々の手によって移動しながら、寄る先々で機能や意味を変えていく作品である。

アートモール・スクール・プロジェクト* 局地限定放送局 TAMA

◎料金 無料

◎内容 牛嶋均の作品《ころがるさきの玉 ころがる玉のさき》は、直径2.2mの黄色い鉄パイプ製の玉を転がしてさまざまな場所に出かけ、行き先で出会った人たちと一緒に、いろいろなことをして過ごすものです。今回はこの玉がラジオ局になります。

■携帯ラジオを持ってきて、TAMAラジオの番組を聴いてみよう！

詳しくは当日「黄色い玉」のある場所まで。

◎持ち物 携帯ラジオ(FM波が受信できるもの)*貸し出しもあります。(数に限りがあります)

◎当日発表の番組表があります。

「金沢銭湯談義」「ラジオで追いかける～昭和歌謡と唱歌の世界」「牛嶋均と失礼なゲスト」「座談会/不満合唱団おおいに語る」「ラジオドラマ いたって平均的なわたしの一日」「詩とかそんな感じの時間」など(予定)

■自作の曲や録音しておもしろかった音をTAMAラジオ局から発信してみよう！

TAMAラジオ局では移動式小型トランスミッターを貸し出します。(数に限りがあります)美術館の敷地を移動しながら発信することができます。誰が聴いてくれるか、楽しみです。

◎受付場所 美術館広場「黄色い玉」のある場所

雨天の場合は美術館内レクチャーホール横「黄色い玉」がみえる場所

◎持ち物 発信したい音源

MP3プレーヤー、CD、MD、カセットテープ、ICレコーダーなどに入れて持ってきてください。

8日(土) 18:00~19:00

光庭(ひょうたん栽培中の光庭)



アートモール・スクール・プロジェクト*

ひょうたんの日・ミニライブ

ひょうたんに聴かせる ひょうたんサウンド

◎料金 無料 ◎出演 奥田扇久 HOP 21 HOP KANAZAWA 21

◎内容 奥田扇久の作品《栽培からはじめる音楽》は、「HOP(ひょうたんオーケストラプロジェクト)KANAZAWA 21」という名の楽団のメンバーを募集し、集まった30人以上のメンバーが一年近くの時間をかけて何種類ものひょうたんを育て、その実を使って楽器を作り来春にコンサートを開くという壮大なプロジェクトです。プロジェクトにとって大切な節目である8月8日「ひょうたんの日」に、ひょうたんで出来た楽器の音を育ち盛りのひょうたんに聴かせ、豊かな実りを祈ります。今回のミニライブでは、奥田扇久、大阪で活動を続ける「HOP 21」の団員が、「HOP KANAZAWA 21」の団員とともにひょうたんサウンドを奏でます。

奥田扇久 OKUDA Senkyu

1990年頃より、ひょうたん愛好家として、また趣味人として会社員活動の傍ら自宅ひょうたんの栽培を始めた。最初は出来た実を足で付け人形にしてみたが、形がギターに似ていたため「楽器にできるのでは」と思ったところから楽器を作り始め、ひょうたんサウンド・パフォーマンスに至る。栽培からはじめる音楽「ひょうたんオーケストラプロジェクト21」(HOP21)の活動やワークショップを開催している。本展では、HOP KANAZAWA 21を結成し、美術館内の「光庭」で《栽培からはじめる音楽》を展開する。

本資料に関する
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 広報担当/落合・岡田
本展チーフキュレーター/不働
キュレーター/黒澤・吉岡・北出・村田・平林・立松
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
http://www.kanazawa21.jp E-mail: press@kanazawa21.jp



15日(土) 16:00~20:00

Zone1内 光庭



撮影:Anna Syczewska
2006年 クラコフ
第8回パフォーマンスフェスティバル
"interakcje"

イトー・ターリ パフォーマンス「ひとつの応答」

◎料金 無料(ただし、「愛についての100の物語」の観覧券が必要です。)

◎内容 イトー・ターリのパフォーマンスは、極めて知的に洗練された手法による身体表現によって、深い思考と感情が高い透明度をもって浮かびあがる。自らの身体を以て現実世界に潜入して得た膨大な取材の集積に基づき、再び自らの身体を以て現実世界に切り込んでゆこうとする純度の高いパフォーマンスは国際的に高い評価を得てきた。故意に隠蔽されている声、黙殺されている声、放置され見過がれている声、忘れ去られていることや気づかれもしない声に対峙し、引き受け、繰り返し応えようとする壮大な一連の行為のプロセスに我々は遭遇することになる。

イトー・ターリ ITO Tari

1951年東京都生まれ、東京都在住。1973年から身体表現に関わり、1982-86年オランダ滞在後、パフォーマンス・アートに移行。身体、セクシュアリティ、歴史をテーマに、最近では軍事下の性暴力についてのパフォーマンスを行なっている。生きることそのまゝが表出してしまうパフォーマンス・アートであるが故、その活動はウイメンズ・アート・ネットワーク(WAN)やPA/F SPACEなど、場をつくりオーガナイズすることにまで及ぶ。作品には《ひとつの応答》(2008年)、《あなたを忘れない》(2006年)、《Rubber Tit》(2006年)、《虹色の人々》(2003年)等がある。

23日(日) 14:00~15:30

レクチャーホール



湯浅誠 講演「つながりの中で生きるために」

◎料金 無料

◎内容 我々は現代の社会を生きている。しかし、ひとりひとり、どんな社会をどう生きているだろうか。人それぞれの生の現場に、やむにやまれぬ思いから生じる表現がある。そんな個々の表現の真実な連なりこそが「関係」を成立させ新たな「価値」を生成し得るだろう。人間の生存と尊厳の危機という極限状態「貧困」—湯浅誠は、「貧困が今ここに「ある」ことを知っている」という、人間としての認識の力によって21世紀の日本社会を創り直そうとしている。

湯浅誠 YUASA Makoto

1969年東京都生まれ、東京都在住。1990年代より野宿者(ホームレス)支援に携わる。「ネットカフェ難民」問題を指摘し火付け役となるほか、「貧困ビジネス」を告発し、現代日本の貧困問題を現場から訴えつづける。2008年年末年始の「年越し派遣村」では村長を務める。現在、NPO法人自立生活サポートセンター・もやい事務局長、反貧困ネットワーク事務局長。著書に『反貧困』(岩波新書、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞大賞、第8回大佛次郎論壇賞)、『本当に困った人のための生活保護申請マニュアル』(同文館出版)など。

23日(日) 11:00~11:30 / 13:00~13:30

広場 ※雨天の場合は美術館内無料ゾーン



アートモール・スクール・プロジェクト* 金沢不満合唱団ライブパフォーマンス

◎料金 無料

◎内容 「不満合唱団(Complaints Choirs)」は身近な不満の言葉を集めて作った歌詞に明るいメロディをのせて歌う合唱団を作るというプロジェクト型の作品です。フィンランドのアーティスト、テレルヴォ・カレイネンとオリヴァー=コッチャ・カレイネンが2005年に開始し、その後、世界18カ国以上に広がっています。金沢不満合唱団は、今年6月から全8回のワークショップを通し、みなさんから集めた不満を歌にしました。共感を呼ぶ不満、驚きの不満が満載の曲です。さあ、一緒に不満を吹きとばす明るい歌声をお楽しみください。

不満合唱団特別上映会 8月22日(土) 13:00~18:00

◎会場 レクチャーホール ◎料金 無料

バーミンガム不満合唱団(2005年 2分18秒) / ヘルシンキ不満合唱団(2006年 2分32秒)
ハンブルグ不満合唱団(2006年 2分44秒) / サンクトペテルブルグ不満合唱団(2006年 4分3秒)
シンガポール不満合唱団(2008年 3分43秒) / シカゴ不満合唱団(2007年 4分24秒)

29日(土) 16:00~16:30 / 18:00~18:30

展示室4



撮影:池田ひらく

ラファエル・ロサノ=ヘメル ラップ・サウンズ・イン・プログレス 《パルス・ルーム》 + B-BANDJ

◎料金 無料 (ただし、「愛についての100の物語」の観覧券が必要です。)

◎内容 《パルス・ルーム》はひとりひとりの心拍が電球の点滅のリズムに変換される作品です。アーティストのラファエル・ロサノ=ヘメルが古典的な美術のテーマ「メメント・モリ(死を想え)」に喩えるこの空間は、絶えず約300人の心臓の鼓動が光となってまたたき、それらの微かな点滅音が無数に重なって生じるざわめきが響いています。8月29日、ヒップホップ・ミュージックの世界で活躍するB-BANDJがロサノ=ヘメルの《パルス・ルーム》とのコラボレーションを試みます。“ラップ・サウンズ・イン・プログレス”とは、B-BANDJがこの展覧会のために発案した音の公開制作。アフリカ、ヨーロッパ、日本を故郷とするコスモポリタンB-BANDJが、《パルス・ルーム》の時空のなかで自由なサウンドを生み出します。

ビー・バンジー B-BANDJ

1972年名古屋生まれ、東京都在住。カメルーン人の父とフランス人の母の間に生まれ、アフリカ、日本、ヨーロッパで育ったB-BANDJは、国境やジャンルを超えて軽やかに旅する現代の語り部である。1990年代モンド・グロソンのフロント・ラッパーとして活躍し、2001年よりヒップホップグループ瘋癲FU-TENのメンバーとして活動する。『Breaking Barriers』(1996年)、『Stand In The Light』(1998年)に続く3枚目のソロアルバム『Where do we go from here ?』(2009年)ではカメルーン語で「神」を意味する曲(LOBA)を自らプロデュースし、現代の絶望と希望をテーマとした。本展では、谷川俊太郎の詩(あい)へのアンサーソング2曲『HOW WE RUN FROM LOVE』、『WE DON'T LEARN HOW TO LOVE.(WE JUST REMEMBER.)』を制作する。

30日(日) 16:00~18:00の間、随時

展示室4



ラファエル・ロサノ=ヘメル ヴァイオリン&ライブ・エレクトロニクス 《パルス・ルーム》 + 島田英明

◎料金 無料 (ただし、「愛についての100の物語」の観覧券が必要です。)

◎内容 《パルス・ルーム》はひとりひとりの心拍が電球の点滅のリズムに変換される作品です。アーティストのラファエル・ロサノ=ヘメルが古典的な美術のテーマ「メメント・モリ(死を想え)」に喩えるこの空間は、絶えず約300人の心臓の鼓動が光となってまたたき、それらの微かな点滅音が無数に重なって生じるざわめきが響いています。8月30日、インプロヴァイズド・ミュージックの世界で活躍する島田英明が、ロサノ=ヘメルの《パルス・ルーム》とのコラボレーションを試みます。アコースティック・ヴァイオリンと電子音を自在に操る孤高のミュージシャンが、《パルス・ルーム》の時空のなかでアナーキーな音響世界を拓きます。

島田英明 SHIMADA Hideaki

ヴァイオリン&ライブ・エレクトロニクス

1962年生まれ、70年代後半、金沢で発行された音楽誌「Avant Garde」の編集に参加。80年代よりヴァイオリンの即興演奏を開始する。85年、電子変調されたヴァイオリンのテープ音楽プロジェクト「Agencement」を開始。これまでにリリースされたCDは「Viosphere」(1991)、「Boxe Consonantique」(2001)など。近年はリング変調されたヴァイオリンも国内外のライブで演奏、2008年より、都内に於いて即興演奏家達との共演も試みている。

30日(日) 18:15~19:30

長期インスタレーションルーム



山本基 《100の迷宮》海に還る

◎料金 無料 ※手荒れの気になる方は軍手などをご用意ください。

◎内容 「作品としての形は消えてしまいます。しかし、この塩が海を巡り、さまざまな生き物の命を支えてくれることでしょう。もしかしたら私たちが口にする機会が訪れるかもしれません。もちろん作品の素材として再会できれば、最高の喜びです。」(山本基)

《100の迷宮》の作者 山本基は、展覧会終了ごとに、作品の素材である塩を海に還っています。「愛についての100の物語」展の会期終了日の閉場後に、作品の撤去を作家と一緒にに行います。そして作品の一部であった塩を皆様に少しずつ持って帰っていただきます。お持ち帰り頂いた塩は、皆様ご自身の手でどこかの海に還してください。海に戻す瞬間を写真におさめて、作家のアドレスに送っていただくと、後日作家ホームページ上で掲載される予定です。

山本基 YAMAMOTO Motoi

1966年広島県尾道市生まれ、金沢市在住。金沢美術工芸大学卒業。主たる素材として塩を用い、彫刻やインスタレーション作品を制作する。塩は、特に日本において、「死」や「浄化」といった概念と結びつけられているが、山本は15年前に経験した実妹の死をきっかけに、塩を用いながら、「記憶」「生」「死」といったテーマを追求する。主な作品としては、塩で迷路を描く《迷宮》や、塩のブロックを積み上げて階段状にした《空蟬》などがある。制作を通じて、時とともに薄れていく記憶の核心部分をもう一度感じ、確かめたいと作家は述べている。

長期イベント

4日(火)～30日(日) 13:00～随時

展覧会会場内ほか



村田仁《徘徊する詩》—愛の前

- ◎料金 無料 (ただし展覧会会場内で行う場合は「愛についての100の物語」の観覧券が必要です。)
- ◎内容 展覧会会期中のほぼ毎週末、村田仁は美術館内外に紙と鉛筆を持って現われ、徘徊する。時折、即興詩を書き上げ、その詩を朗読し、その場にその詩を置き去りにすることもある。《徘徊する詩》とは、詩人、村田仁の日常が、本展の時空に交差した時にその場で起こる出来事の全てを指している。

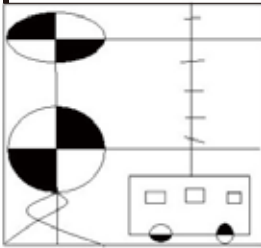
村田仁 MURATA Jin

1979年三重県生まれ、北名古屋市在住。1999年より詩人として活動を始め、被災地への安否確認を読みあげるテレビ放送を呈示する《言葉で願う夜》、コンビニエンスストアで子供による朗読を放送する《おじさんに会いに行く、冬。》など「行為による詩」を発表。《ブルーマヨネーズ》では、詩人の小松亮一と互いの詩を並立させ混ざり合えないことを意識化し、《The Constellating Recollections. 記憶の星座化》、《労働記者クラブ～先日労働新聞》では、写真家山田亘氏と共に他者との記憶の共有を試みた。

7日(金) 16:00～ 8日(土) 14:00～

20日(木)、21日(金)、26日(水) 14:00～ / 16:00～

展覧会会場内ほか

アートモール・スクール・プロジェクト*
みかん電鉄まるびい線開通

- ◎集合場所 柿木畠口そば「ターミナル駅」
- ◎料金 無料 (ただし、「愛についての100の物語」の観覧券が必要です。)
- ◎内容 「みかん電鉄」はアーティスト2人組のユニットです。「電車ごっこ」のスタイルで人と人、作品と人をつなぐコミュニケーションの場を創り出します。このたび、金沢21世紀美術館(愛称=まるびい)内に「まるびい線」を開通し、来館者の皆さんを乗せて作品との出会いかたを見つける旅に出ます。

みかん電鉄 MIKAN DENTETSU

大橋広子と宮武小鈴によるアーティストユニット「みかん電鉄」は、電車ごっこを通して、アートとのコミュニケーションの場を創出する。見知らぬ来場者どうしは、乗客として運賃の代わりに様々なミッションをこなしながらアート体験を共有する。希望者は乗務員や経営企画などに携わる社員登用の道も、2005年の結成以来、自由な発想で業務革新を続け、岐阜、神戸、福井などで不定期に運行されている。

*アートモール・スクール・プロジェクトについて

「アートモール・スクール・プロジェクト」は、「愛についての100の物語」展の様々な作品をアーティストと参加者が一緒につくり上げるプロジェクトです。

- ・ 別途、アーティストへのインタビュー取材を希望されるかたはご相談ください。
- ・ 展覧会のプレスリリースは美術館ホームページ(<http://www.kanazawa21.jp/>)フッター部分「プレスリリース」よりダウンロードできます。